

## 年表で読む 古平の歴史《49》

せたかむい

発行・古平町史編纂室  
古平町文化会館 842-2590  
第142号・平成13年7月1日

### ■資金を借り着業

新規にカレイ網漁をするには資金が要ることから、商店などからの資金を受けて着業する者も多く、歩方制度で經營する所もありました。

大正二年のカレイ刺網漁は、

一月は時化続きでしたが、二月に入ると、一日二〇〇キロから三〇〇キロという大漁が続きました。

この年、梅野清太郎は、カレイ網のアバ(浮子)にうるしを塗ると海水をふくみにくいため、アバ一枚二錢で購入しその利用を勧めたところ、やがて全漁船がこれを使用するようになりました。(先日、沢江町笹谷正敏さんから、このうるし塗りアバを町の資料館に寄付して

(いただきました)

カレイ網は比較的沿岸に近く、海難も少なく漁も順調なことから着業者が多くなり、大正三年に鰯差網組合を組織しました。

規約を要約しますと、

一、出漁は午前六時よりとし、

天候の悪いときは九時まで待つが、それ以後は出漁しない。違反した者はからは十円を徴収する。

二、組合員は必ず帆印をつけること。実行しない者から

は二円を徴収する。

三、網を入れたときダブには赤旗をつけ、各自の印を入れること。

九、沖合いで漁具が紛失し、他の船上に紛れ込んだ疑いのあるときは、その船に乗り込んで調べることを認めること。

十、沖合いで遭難したとき、第一番に救助に当たつた船

に十円、第二番には三円を賞与とする。もし避難船があつても救助に行かず、漁をし

ている者がいたらその漁組合には組合長一名、副組合長六名をおき、組合の事務を担当する。

五、六隻の火揚げ船を選び、出

るため「マネ」を揚げる」と。

沖で三隻の船から「マネ」が揚がったときは漁を中心止すること。四隻が「マネ」を揚げてもなお漁をするときは、その船の漁獲物を

網がかりをしたときは、関係者が立ち会って処理をすること。

八、網に害を与えたり、鮮魚や漁具を盗んだ者を取り押さえた者へは十円の賞与金を与える。それを黙つた見ていた者は、違反金として十円を徴収する。

九、沖合いで漁具が紛失し、他の船上に紛れ込んだ疑いのあるときは、その船に乗り込んで調べることを認めること。

十四、流失した差網を沖合いで拾つたときは、すぐには組合長に届けること。組合長立会いで持ち主に返し、謝礼として新網一把につき三十銭、古網は二十銭の割で拾得者へ与える。

十五、集合を要するときは、回章をもつて一同に通知すること。正当の理由が無いのに出席をしない者は違約金として一円を徴収する。

各組合員は固く規約を守るために出席をしない者は違約金として一円を徴収する。

漁獲物を没収する。

十一、難船や差網を流失したりして漁の出来ない者へは、救護のため差網船一隻を恵与する。

十二、組合員は差網船一隻につき、積立金として一円を組合に収めること。

十三、毎年一月一日は祝意

を表すため休業とする。一月二日は植立てのため集合する。

十四、組合員は固く規約を守るために出席をしない者は違約金として一円を徴収する。

十五、組合員は署名捺印をする。

組合員一八名



# ちよつとみらくさ



## のこと



室 谷 忠 雄

仏教の本などを読んでいる  
と、まさか？と思うようなこ  
とが書かれていますので、ちょ  
うと横道にそれたような仏教と  
して書いてみました。

仏は如来が最高位で、順に菩  
薩・明王・天・力士・神将とあ  
るのは知つての通りです。

ただ、これらの中身をよく調

べて見ると、エピソードや違  
があり、私なりに書いてみたい  
と思います。

まず、如来です。中でも大日

如来は、密教世界最高位の仏と  
されています。実はこの大日如  
来には二種類あるのです。

密教世界の中には、金剛界と  
胎藏界という二つの世界があつ

私は小さいころから、毎日浜  
を見て育つたと言つてもいいで  
しょう。朝起きたら、まず浜と  
向き合うのです。

しかし、毎日見ている浜も、  
その表情は決して同じではありません。  
どこか違つているのです。  
私は、ふとそんなことを書  
いてみたいたしました。

昔の浜は、現在とは違つて広  
々としていました。砂浜も、海  
までずうつと広がつていまし  
た。海の色は、四季の移り変り  
を映し出してくれます。なぎの

みぐあいでも、なぎさは大きく  
変わります。

それと、時化の後の浜辺は寄  
り木でいっぱいでした。浜の近  
くの家では、流木が寄つて来る

のを待つて、いたように、早速寄  
り木拾いが始まります。炊事や  
やら冬のストーブの燃料にするの  
でしようか。また、波や潮の込

ですが、小山ができるほど集め  
で組む、法界定印（禪定印）と

て、そのどちらの世界も本尊が  
大日如来なのです。

それでは、なぜ別の如来な  
かが分かるかというと、如来が  
結んでいる印相が違うので誰が  
見てもすぐ分かります。

金剛界大日が結んでいる印相

は、左手の人差し指を右手で握  
っている智拳印という印相で、

大日如来の知恵が堅固なもので  
ある、ということを表している  
ものだそうですが、一方、胎藏

界大日の印相は、両手を腹の前

に結ぶ印相で、禅宗の僧が禅をす  
るときに結ぶ印なのです。

しかも金剛界と胎藏界の大日  
如来が、それぞれの世界で同じ  
印を結ぶということは絶対に無  
いのだそうです。

そうであれば「一仏一宗」な  
のか「一宗一仏」なのか、密教

は分かりにくい仏教だ、という

ことになるのですが、大日如来

を拝観する機会がありました

ら、それは金剛界か胎藏界か、

どちらなのか改めてご覧になつ

てください。

ましたから、薪（たきぎ）が必  
要です。山へ行つて枯れ柴など  
を取つて来るより、浜へ流れ着  
く寄り木を拾つた方が手近かで  
すからね。漁師にとつて時化は  
困りますが、ときにはこんな恩  
恵もあつて家計を助けてくれて  
いたのです。

昔の浜は、荒っぽさと何とな  
く情緒がありましたが、いまは  
コンクリートの塊になつてしま  
いました。遊び場でもあつた、

子どものころの浜を懐かしく思  
い出しておられます。

昔は炊事にかまどを使つてい  
ます。

# — 古平 いろはうた —

留守番はねこにまかせた鮓どき



とにかく鮓場の忙しさという

のは、その当時のことを体験した人でなければ実感がわかない

ようである。沖では船頭の号令のもと、漁夫たちは大声を出し

て眠気を覚まし、ときには不眠不休で網を起こす。陸ではその

鮓を陸揚げする人手を集めるのに、陸廻りは必死で町中を走り回る。鮓を獲るのは時間との勝負もある。いくら網に入つても、陸に揚げないことに金にならない。のんびりしていたのでは鮓に逃げられ、時化の早い

この時期は、せつかく獲った鮓を捨てなければならないこともあり、捨てた鮓の方が多いことも珍しくないという。

その昔、「江差の春は江戸にもない」と、鮓漁の後の町の華やかな生活ぶりが評判になつたが、鮓どきには武士も刀は家に置き、僧侶から神主、華やかに着飾る芸者まで浜に駆り出さ

れ、町から人影が消えるほどだ

と、当時の本にある。

日本海沿岸の各地に今も残る漁家や神社仏閣、所蔵されている品々、親方とか網元とか呼ばれていた人たちの生活からも、その繁栄ぶりをうかがい知ることができる。

大仕掛けな建網や大量の鮓を処理するのに、鮓場ではすべてが人力だけが頼りであつたから、「ねこの手も借りたい」というのが、せっぱ詰まつた率直な気持ちだったろう。

古平では大正の末期に、蒸気機関やモーターによるウインチ（巻揚げ機）が設置され、一基でもつこしよい三十人分以上の能率だったという。



は無言で体を動かし、手先に集中していた。昭和の始め、出面（でめん）といわれる日雇いの給金は男で九十銭から一円、女では六十銭ぐらいだった。それが鮓場の忙しい時期になると、女で

も二～三円になり、そのほかに

鮓をいくらか貰えた。鮓で支払

つてもらう人もいて、その鮓を自分で身欠に加工して業者に売り、それでまた利益を得ることもできた。多くは女の仕事で、

子どもたちにとつても、子守りや炊事だけではつまらない。子どもものできる仕事の手伝い

へ↑もっこしょいと←鮓割き▽

売り上げ分がほまちになり、それが小遣いになるという大きな楽しみがあつた。

や、船から海にこぼれた鮓をかぎで引っ掛け、それをアメ玉やおやきと取り替え、おやつにありつけるのも鮓どきの喜びであつた。

## 断章小説【ふるさと遙か】第24編

## 死んだらいかんとよ

吉川義雄

豊後水道を遮るようにして四国から突き出ている佐多岬半島は、もう少しで九州に届くほど長さで瀬戸の内海に波浪を寄せつけず、伊予灘はいつも穏やかであった。

夏の夕映えが名残を惜しみながら砂浜から去る頃、今度は待ちかねたように村人たちが海辺に集まつて來た。飛行場が出来るまではこの辺一帯は昔からの住人ばかりで、土地を無くしたばかりか、海軍機の轟音に生活を乱されみんな疲れ果てていた。

音の止んだ砂浜は、海との間に月光を青白く躍らせ美しく平和であった。

「おい、死ぬってどういうことなんだろうなア」

暑さにうだる兵舎から、示し合させて砂浜に逃げて來た五人

の同年兵のうち、一番若い予科練くずれの浅井がいきなり大変な問題提起をして、みんなをシユンとさせた。

「おい浅井、お前そんなことばかり考えているから予科練をおっぽり出されたんだぞ」

万事に単純な山崎は面倒なことは嫌いだから、人もそうだろうと思うらしく、問題をすり替えあつさり片付けようとした。

「山崎よ、それでは答えになつとらんよ。お前はどう思つているんだ」

平山の声であった。彼の言葉にはいつも重みがあり、仲間から厚い信頼があった。この夜も彼の言葉に軽く受け流せるような隙はなく、むしろ切迫した

「似たようなことを俺も言われたよ。キリスト教の牧師に神を信じたら死後は天に行くが、そうでない者は地獄に落ちる」と。俺は尋ねたよ、神様はどこにいて、どんな形をしているのかつて。牧師はにらみつけても返事はしてくれなかつたよ」。

少年の日、小僧奉公時代を吉野も想い出して言った。間もなく出撃の近い部隊の中で死を考えた。

「俺にも分らんが、俺なりに言わせてもらえば、肉体だけならここにある砂と同じ元素だよ。形は変わつても元素そのものは変わらないよ。しかし、心つてのが別にあるのか、どう関係するのかいくら考えてもわからん。俺だつて全部分かつてから安心して死にたいが……ただ、何にも無くなるとだけは思いたらないんだ」

涼風が少し流れ、彼の言葉に聞き耳をたてていた仲間は、さすがと思ったが結論とは遠かつた。

彼らの語らいを、流れる風の中から拾つて、いたらしい村の老婦の声がどんぐり来た。

「兵隊さんツ、死んだらいかんとよツ。どんなコツあつても生きて、生きて、生き抜くんじやア……」絶叫であつた。

へこの稿終わり

# 北海道・樺太・千島を探険

## 最上徳内 蝦夷草紙

を読んでみましよう

11

### 大河と不思議な水

広い大地には大きな川があるが、狭い土地に大きな川は無い。わが国(内地)でも東には大河があるが、西に大河と言われるものがないことからも分かる。

蝦夷地は、わが国にも劣らぬ広い土地なので大きな川がある。西蝦夷地にはイシカリ(石狩)という蝦夷地第一の川があり、

また、東蝦夷地にはトカチ(十勝)という蝦夷地第二の川がある。イシカリ川は小舟で九日くらいも遡ると、川岸に蝦夷の住居がある。

このイシカリ川は鮭の塩引きを出すところで、秋になると日本本の商船が数十隻も泊まつてゐる。風波の心配もなく、数百隻が集まつて來ても混乱が無いほ

ど広い。この川には根の付いたままの大木が流れ来るところがあるが、人々はそれを見て、この川上で大雨が降つたのだと言ふ。この川の河口ではかなりの川潮の干満が見られる。

また、トカチ川は浜から一里くらい上流で二つに分かれ海に入るが、河口の近くに瀨があるので大きな船は入ることができない。

また、ポロベツ(幌別)の場所内にノボルベツ(登別)といふ小さい川があるが、この川の四、五里奥にイオウのにおいのするところがあり、その辺りからは温泉がおびただしく湧いて流れている。それで水もねずみ色に見え、水の勢いが急なので泡立つてゐる。このように濁つ

てるので川底は全く見えない。近くにエサン(恵山)という山があり、その下にスカヒ川という小さな川があり水はきれいだが、その味は大変酸味が強く渋い。山の上にはイオウ・ミヨウバンが多くあり、それが溶けて川に流れているのである。

知内の山奥に温泉があるが、その側に毒水の湧くところがあり、虫や鳥などがこの水を飲むと即死するという。

またウルップ島の北、チリボイという島には、岩の間からわずかずつ涌き出る泉があるが、その味は酒のようで、匂いはナシのようだという。それで、この島に行つた者はその味わいが忘れられず、つい数日はそこに留まる。満腹しても飽きるといふことがなく、いくら飲んでも無毒で酔うと言うことも無い。

それで蝦夷人はこれをカモイワツカと呼んでいる。赤人もまたこれを大いに賞味するそうである。

天下広しと言つても、このような名水は珍しい。さしあたり、わが国の養老の滝とでも言つた

ところであろうか。

私は、まだこの水を味わつたことがないので蝦夷人に聞いたところ、樺の木に傷をつけ、そこから出る汁を飲んだ匂いによく似ているというので、私もその汁を飲んでみたら、うまそくなナシの匂いがしてとても甘かつた。蝦夷人は、江戸の酒の味にも似ていると言つてゐる。

**【注】** 石狩川の鮭 || 石狩川の源流は上川郡の奥、十勝国境の石狩岳で、ここから発して比布川・ウシシユ川・美瑛川などと合流して水量を増し海に注ぐ。延々と百里(約四〇〇キロ)、

北海道第一の大河である。

北海道では、鮭は鱥に次ぐ重要な産物なので、その豊凶は蝦夷にとってとても大事なことであり、交易品であつたばかりではなく、地方によつては冬季の主要な食料となつてゐたので、ひどい凶漁になると餓死する者が出てるほどで、今から十年ほど前には二百人余りが餓死したこともあつた。

思ふ出の中に生きる  
夫の漁師人生

渡辺ハツエ工

夫が他界してから早や五年の歳月が経ちました。

私は近隣の皆様をはじめとしまして子どもたちに支えられながら、今日までつづがなく過ごせました幸に感謝しながら平穏な毎日を過ごしております。

顧みるに亡夫の来し方には、悲喜こもごも、いろいろな想い出が私の脳裏をよぎります。

夫は、高等科二年を卒業するとすぐに漁師の道に進み、自分の親ほどの年齢差のある先輩にみちびかれながら、和船で櫂(さき)を漕いでいた時代から、船外機の舵(ひだ)を握っての六十余年の歳月、海を愛し、自分の職業に誇りを持って歩んできた自分的人生は、まさに漁師人生といつても過言ではないと思つております。

夫が元気で漁業に励んでいたある年の秋、十月のころのこと

でした。その日は朝から好天に恵まれ、とてもよい嵐の日でした。その日の安全操業を祈つて夫の出漁を見送りました。

正午近くになつて、操業を終えて寄港する時間を見計らい、浜辺の護岸に立つて沖合いを眺めると、遙か彼方に小舟が一艘ボツンと見えたのです。すぐに私は肩に掛けていた双眼鏡をの

ぞきました。小舟はエンジンの音も力強く、私との距離もだんだんせばまつて、双眼鏡にはつきりと映つたのは夫の操縦する愛舟『健生丸』でした。私は一瞬、自分の目を疑いました。双眼鏡でなければどうてい見るこのできなかつた、沖合いで夫の勇姿でした。感激しました。漁獲した蛸を市場へ荷揚げ

「亡夫の漁師人生に拍手喝采」

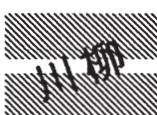
泰さん、坂田光彦さん、酒井正三さんからもいろいろと寄贈いたとき、資料館へ収蔵しました。資料館も手狭で、現在はとても展示できる状態ではありませんが、将来の活用に向けて収集に努めていきたいと考えております。ご協力のほどをお願いいたします。

▽最早お詫びから——五月号に載せた『蝦夷草紙』を、そのままで六月号にも載せてしまい、町内の朗読の会の方から言われてようやく気づいたというオソマツでした。申し訳ありません。

▽昔の道具類や生活用品などは、一般家庭ではもう見ることもなくなりました。先日、沢江町の笹谷正敏さんは漁具類多数とそりなど、ほかに若松正

するため、船足も早く、エンジン音を強くひびかせ漁港を目指して進んでいます。

その日の安全操業と、夫の労苦に心から感謝しました。「夫の漁師人生」は、この日の出漁が最後の日となつてしましました。



ハンセン病首相の決断涙あふる  
あじさいを嫁の気持ちに花が咲き  
ソーランの乱舞に酔いて無我夢中

石井愛子

泰さん、坂田光彦さん、酒井正三さんからもいろいろと寄贈いたとき、資料館へ収蔵しました。資料館も手狭で、現在はとても展示できる状態ではありませんが、将来の活用に向けて収集に努めていきたいと考えております。ご協力のほどをお願いいたします。

▽早いものでもう一年の折り返し、間もなく、賑やかな祭りはじめが古平の盛夏を告げます。

# 短歌

## 吉平町岬短歌会詠草

啄木の歌碑多く見し釧路の街次男一家と過ごし忘れず遠く來し吾を待ちくれ集まりて笑顔向け合ふ久しきうから

池田てるる

日ならべて南風吹きわが庭の赤きチューリップ皆咲きぬ白木蓮の咲く頃何時も群をなす名知らぬ小鳥今年も来てをり

奥山きよみ

北見路の車窓に見ゆる風倒木白き肌さらす白樺あはれ丸山を背に建つ温泉に憩ひをりかしましき音は夏蝉の声

榎代佳代

母の日に娘のくれし花束を分けて供へぬ写真の夫にボーナスにてテレビを贈りくるるといふ嫁に思はず拍手出でたり

鈴木時子

ほぐれ行く暗き雲みな遠ざかり明るき境内に春の菜を摘む衣ずれの音なつかし博多帶巻くたびきゆつと快よき音す

竹内コト

共有の海なり規則守りつつ漁の有無あるなしを一喜一憂す連なりてこぼれむばかり鈴蘭の花におく露光りかがやく

田中香苗

やうやくに芽の出揃ひし菜園に紋白蝶ひとつはやも止まれり朝のうちに庭や畑に水注ぎ見上ぐる空に淡き残月

丹後初江

雪殘る畑に出づれば常夏のマレーの旅は夢の如しも風吹けば香りを降らす朴の花除草する手を休めて仰ぐ

東美知

幼なき日にならひし舞踊「花かむろ」足踏みをたどる朝のゆめに一尺余の浮玉飾るに豊漁に湧きゐし頃の浜の思ほゆ

堀典子  
あした

夕暮れて人ら相倚り住む町のそれぞれの家に洩るるともしひ空と海分つ辺りに紫の雲たなびきて町は明けゆく

山口スエ



## 吉平ホトトギス会

躋わらび採れし故郷今が好き

斎藤波留

冬越せし金魚今年も顔を見せ

山口悦子

朝露の清やかに濡れし白牡丹

越野敏雄

朝もぎの粒選り苺夫に買ふ

大和田絵伊

老鶯や出戸ノ沢橋までの徒步

福井幸平

かつこうの声聞きながら鍬手入れ

関口勝志

湯上りの肌見比べる夏の宿

よしざきり

お地蔵を洗う姉妹や栗の花

仲谷比呂古

春光の夕ベ眩き日本海

越野清治

山肌の欠けしことも草茂る

室谷弘子

今聞いてこれ振り花けもの徑

岩瀬みのる